

事業所名		公表日				
ほっこりの里		令和7年 5月 9日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	・職員の人数は充分である。	・個々の専門性も高め、支援が行き届くよう心がけます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	・引き戸で床もすべて同じ高さなので、視力の弱い子や多動の子も移動がスムーズに行える。	・設備は充実しているので、視覚的に把握しやすいように、引き続き構造化を進めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	・使用後の清掃、消毒を定期的に行うようにしている。	・清潔で安心できる空間を大切にします。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・個々に合わせて利用を認めているが、わがままにならないようにするのと、集団活動の誘い掛けは意識している。	・体調や疲れに合わせて、個室の提供行っていきます。また、どのお子さんでも使用できるように、固定化されない提供を心がけていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	2	・設定は丁寧に行っている。	・業務改善できている所、できていない所をもっと明確にし、職員1人1人が日頃より、意識しやすいようします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	・話を聴かせてもらった後の報告の周知を行っている。	・公開している旨を、保護者に周知いたします。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・職員間の意見交換の場面は、常に出来ているので、良い職場と思う。	・職員間の意見交換の場面は、常に出来ている為、どうするかの話に繋げていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	・行っていない。	・貝塚市の施設連絡会で外部の見学、評価を受ける仕組みもできればと思います。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・研修等の機会が認められているのが良い。	・研修の情報をより多く取り入れ、参加していきます。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・作成、公表はされている。	・強みを生かし、お子さんが参加したいプログラムを作成して参ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・状況を把握して利用時間等も配慮できている。	・より専門性を高め、お子さんの発達に合わせた計画をたてていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	・児発管の許容と、保育士の許容が違う。	・意見が合わない場合は、継続できる方で支援してまいります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・遊びや好きなおもちゃなどは個々にケースに入れてあるので、わかりやすいと感じる。	・計画に沿って支援を行い、良いと感じた部分の共有を図りながら、次の計画書に繋げて行きます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・外出時などに行動の順番や場所のシートを作成している。	・お子さんの課題や良かったことの記録を行い、モニタリング表に書き込む等、全職員が確認し、把握できる環境を整えます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・支援内容ごとに計画ができています。こどもに合わせた課題を出来る範囲で受けている。	・発達支援の5領域も組み込み、内容を高めていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	・保育士の意見を取り入れながら、計画を立てている。	・他事業の情報や活動内容にもアンテナをはり、より充実したプログラムにしています。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・他の事業所や参考資料などをみながら、今利用している子ども達が楽しめる活動を探すようにしている。	・お子さんの発達に合わせた、小さな変化も大切にしています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・全体の活動を皆が楽しいと思えるものにしていき、無理なく個別から集団へうながせるようにしている。	・お子さんの調子に合わせて、集団活動への促しや、個室の対応を柔軟に行います。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	・職員の勤務状況に合わせて、役割分担をしている。	・打ち合わせの段階で、リスクヘッジにも力を入れてます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	・勤務状況から送迎後に活動の振り返りはできないが、ボードでの連絡を取り入れている。	・気付きでは、良い所、強みに焦点をあて、支援に繋げていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	・記録は皆からの意見や話も入れているので、しっかりできている。	・支援記録においても強みの成長、次回の支援の改善を記載しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1	・職員会議を月一回定例化している。	・せっかくの計画の見直しをする職員会議を月一回定例化していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	10		・低月齢の子でも遊びと生活面で少しずつ取り入れて工夫している。	・職員全体が、意識して支援できるように定期的に4つの基本活動の再確認を行います。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		・製作などで、選ぶことをやってから、おやつや遊びの場面でも選択がこどもや職員も上手になっている。	・絵カードの使用や、部屋の選択、お子さんの状況に合わせる事を大切にしています。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・管理者が参加している。分からない点はきちんと聞く姿勢があるのが良い。	・日頃より、相談支援事業所との繋がりを大切にしています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		・縦横の連携は大切にしている。	・日頃からの関係を大切に、関係機関全体で、お子さんの支援を円滑に進めていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		・直ぐに確認できるように、連絡手段は常に携帯している。	・少しでも気になる事があれば、積極的に情報の共有を行います。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		・実際に園や事業所へ見学へ行き、情報を大切にしている。	・保育所への訪問、特徴や気を付ける事の共有を行い、お子さんが過ごしやすい環境の設置を行っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		・積極的に情報を提供するようにしている。	・情報の共有を積極的に行い、いつでも対応できるように体制を整えて参ります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10		・研修がある場合はどの職員でも参加できるように知らせてくれている。	・児童発達支援センターや児童発達支援事業など、専門機関との連携を日常的に行えるようにしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	1	・地域交流スペースを活用して、地域のお子さんとの交流の機会も持っている。	・地域交流スペースを設けている為、今後地域のお子さんを対象に学習室を開放するなど、より多くの交流の機会を持てるようにします。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	2	・開催が分かった際は、児発管が参加している。	・貝塚市内の協議会に引き続き参加して参ります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・ご家族の思いに寄り添うことを事業所全体で大切にしている。	・半年に1度のモニタリングだけでなく、送迎時などご家族とのやりとりを大切にしています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	・家族参加の研修は行っていない。	・事業所内での研修開催時にご家族の参加を促すなど、ペアレント・トレーニングとなる機会をつくっていきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・面談の中でゆっくり対面で話すので理解してもらいやすい。	・定期的にご不明な点がないかなど、事業所からアプローチしていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・計画書更新の際、必ず意向の確認を行っている。	・計画書の説明の際は、相違がないよう丁寧に説明していきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・支援内容の確認は欠かさずに行っている。	適切な助言ができるように、職員一同専門性を高めて参ります。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・連絡帳への記入があった際には電話や口頭で返答するように時間をつくっている。	・保護者様が相談しやすいように関係性を築いていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	2	・父母会は開催していないが、声がかかった時には返答するようにしている。	・毎年、ほっこりフェスティバルを開催しておりますので、きょうだいの参加の案内をする等、情報発進に力を入れて参ります。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・耳に入ったら即上司に伝え、直接対応するようにしている。又、同じ苦情がでないように皆で話あうようにしている。	・申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応して参ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・SNSで遊んでいる時の写真や動画の配信をすることで、様子を伝えている。	・行事予定や活動概要など、インスタグラムを活用し、発信して参ります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・所内での書類の扱いはしっかり守られている。	・全従業員に対して、定期的に個人情報の取り扱いについての注意を促していきます。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・視覚支援や分かりやすい言葉で伝えるほか、過剰な反応をしない等、伝え方を知らせている。	・お子さんと、ご家族の関係性のフォローも行えるように、引き続き専門性を高めて参ります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	・地域の子と遊ぶ機会も大切にしながらルールも伝えている。散歩などでは地域の人にこちらからあいさつを行っている。	・地域交流スペースを運用し、地域との繋がりを日常化できるようにします。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・職員へのマニュアルの周知は、法人会議・研修の際に周知することができる。 ・訓練は、定期的に行われている。	・マニュアルの見直し、改善を年間の予定に組み込み、定期的に業務継続計画の改善をおこなっていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	・BCPの研修が、法人内で開催されている。	・業務継続計画に添い、適切な訓練を行ってまいります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		・通院の際は後日、聴き取りをしている。入所時も情報を書類にまとめ、ファイリングしている。	・情報の再確認を定期的に行い、全従業員で共有します。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・アレルギーがわかったら食事やおやつを表に記入し全員で見てるようにしている。	・初期調査だけでなく、日々アレルギー反応がないか、お子さんの様子、状況の変化を見逃さないようにします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	・計画は立てており、月に1回の会議にて研修を取り入れている。	・安全計画に沿った研修をし、安全性を高めて参ります。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		・防災グッズの協力を求めて持ってきてもらっている。置き場のこと考え、紙パンツの数を決め手はどうか。	・防災グッズの協力を得て、災害時に備えます。また、置き場を確保して参ります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	・月に1回会議を行い、ヒヤリハット報告を行っている。	・職員体制の変化などもあり、検討会の開催が不定期となってしまっている為、早急に体制を立て直し、事業所全体で事例の検討、共有をしていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・職員を対象とした法人会議を行っている。また、貝塚市の従事者を対象とした研修にも参加し、研修内容を職員全体に周知している。	・事業所だけでなく、第三者の意見なども取り入れ、事業所の風通しを良くしていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		身体拘束をしなくて良い方法を考えて、個室や個別対応するなど工夫している。	・安全の為の身体拘束であっても、記録は必ず残し、必要性の判断も事業所だけ行わず、主治医など第三者の意見を取り入れます。	